



こおりまち

議会だより

平成29年春号 VOL. 108

一般会計予算 可決 ... ②
3 月定例会 する

中山間地域の農業振興対策は
(一般質問・8名登壇) ⑫

特別委員会設置
議会改革・活性化、役場庁舎建設調査 ⑮

議会報告会開催のお知らせ ⑳

真剣なまなざし
見つめるその先は...

— 釀芳幼稚園入園式 —

みんなとつながり

みんなが活躍できる 安心のまち桑折

平成29年度から5年間
実現のための
4つの方針

施政方針 8 名 がただす！
3 月 7 日

ー町の未来像

1 魅力的で活力ある 地域社会の創生

- 農林業振興
- 観光交流
- 都市緑化と景観
- 移住・定住
- 商工業振興
- 土地利用
- 歴史まちづくり

2 健やかで希望に満ちた 暮らしの確立

- 結婚・子育て支援
- 健康と医療
- 地域福祉
- 高齢者福祉

3 安心安全で住みやすい 生活環境の構築

- 消防・防災
- 環境衛生
- 総合交通網
- 水道
- 生活安全
- 環境共生
- 居住環境

4 志高い人材を育む 学びの醸成

- 乳幼児保育と教育
- 小中学校教育
- 生涯学習
- 生涯スポーツ

3 月 定例会

平成29年第1回定例会は、2月28日から3月16日までの17日間の会期で開催された。提出された議案は、条例制定2件、条例改正9件、平成28年度補正予算5件、平成29年度一般会計及び特別会計予算6件、陳情1件、発委1件、発議2件の計26件ですべて原案通り可決した。

重点プロジェクト

- ①「献上桃の郷」展開プロジェクト
- ②21世紀の追分推進プロジェクト
- ③歴史まちづくり推進プロジェクト
- ④町民のための庁舎整備プロジェクト



心字の池

問 桑折町を支えた蚕糸業の歴史を偲ぶ景観のひとつともいえる庭園を活用し、設計・監理後どのように取り組んでいくのか。蚕糸跡地活用計画の6ヘクタールの1/2にあたる3ヘクタールを公園とする方針の桑折町のランドデザインを伺う。

答 当時を偲ばれる、磨けば光る状態で残っている庭園だ。しっかりと整備し、新たな総合計画の1年時のスタートダッシュをしたところで、輝かしいふるさとを実現できるような努力をしていく。

羽根田八千代 議員

蚕糸庭園「心字の池」を後世に磨けば光る庭園だ、整備する



ペレットストーブ

問 太陽光やペレットストーブ設置等への助成等、推進の町に相応しい施策を展開しようとしているが、岩手県紫波町を視察した際、地域循環型方式を取入れた成功事例を学び、当町も町内業者と連携し、民間資本を活用した起業創出による雇用機会の場を図る考えはないか。

答 これら事業を行うには、当然関連業者との連携をしながら、再生エネルギー推進の町として、促進を図っていく。

地域循環型方式による企業創出を推進の町として取組んでいく

齊藤 謙 議員

方針3
安心安全で住みやすい
生活環境の構築への質問

方針4

志高い人材を育む
学びの醸成への質問

川名 静子 議員

進学対策、なぜ全員を対象としない？

自主的に参加したい希望者を

問 本町の教育にかける想いは、今も先人達から引き継いでいる。現在土曜学習は一学期に一度、希望者に対しOBの先生方や大学生のボランティアにより、わからない部分や興味・関心を高める内容と理解していた。しかし今回、希望する子ども達へ民間の学習塾から講師を迎え、ノウハウを教わる。なぜ、受験生全員を公平に受講させず希望者だけなのか、税金の使い方は公平なのか。

答 土曜学習は土・日曜は地域と家庭が担うことから、充実した土曜日の過ごし方の選択肢の一つとして28年にスタートした。学校教育が人間の発達すべては担えない。自主的に活動できる場を充実させ二一ズに答えている。

重点1

「献上桃の郷」展開
プロジェクトへの質問

渡邊 英直 議員

県オリジナルに向けてトップセールス

絶好のチャンスとらえている

問 「献上桃の郷展開プロジェクト」におけるトップセールスにあつては、2020年東京オリンピックに向けて、東京都やオリンピック組織委員会等にもトップセールスを行うべきと考える。また、この度6次化商品として開発した「献上桃の郷」ソルベをデザートとして活用していた、ただけるようトップセールスの相手方へ働きかける必要があると考えるが所見を伺う。

答 桑折町産の桃、また6次化商品を出し出す絶好のチャンスととらえ、東京都知事、組織委員会へも新たなトップセールス先として行っていく。

原 賢志 議員

町振興公社の農業強化支援策は

伊達崎幼稚園舎活用に職員確保

問 伊達崎幼稚園舎を利用した今後の事業において、町振興公社の農業部門強化支援策とはどのようなものなのか伺う。

答 伊達崎幼稚園舎は、地方創生拠点整備交付金により農家レストランや加工施設として活用していく。女性を中心とした運営や多くの皆さんの6次化商品の開発・研究に利用して頂きたい。町振興公社は、経営感覚に優れた経験豊富な熱意のある方を常勤職員として採用し組織としての人的強化を行い、地場産業振興、地域振興の一環として関わっていく。

重点2

21世紀の追分推進
プロジェクトへの質問

齋藤 松夫 議員

飛田市街化区域拡大の協議は

コンサル委託と併せ県と協議中

問 21世紀の追分プロジェクト、つまり4号国道インター周辺の開発だが、周辺は農地であり、どうやって都市的利用の道を開くかが問題だ。県方針のなかにある「飛び地市街化区域拡大」に向けて県などどのような協議を行っているか。

答 県の都市計画及び、農地部門との協議を行っている途上だ。コンサルによる調査も委託中だ。当該地は他市町村と比較して開発可能性において優位にあると考えている。

農工法など農サイドからの開発も視野に入れた検討も行っている。

岩崎 久男 議員

IC周辺土地利用の課題は

農用地区域からの農振除外が条件

問 重点プロジェクトの、第2は、国道IC周辺の開発だ。現在農地の転用や農振除外に向けコンサルタントへ業務委託がなされているが、進捗状況を伺う。また法的な制限があることから約30ヘクタールある萱尻牧野は代替地となりうるものか伺う。

答 農用地区域であるため、開発に際しては農用地区域からの農振除外が条件となる。並行して農地転用許可が必要となることから民間コンサルへ業務委託しているが、現在のところ報告待ちである。萱尻牧野の代替地については、農用地区域指定を受けていることから代替地にはならない。

重点4

町民のための庁舎整備
プロジェクトへの質問

佐藤 武朗 議員

町民の一大事業、アンケートの実施は

基本計画策定に向け、実施を予定

問 新役場庁舎建設は、町民にとっても一大事業と考える。プロジェクトの目指す姿には「町民に寄り添い頼りにされる役場」とある。平成32年度完成を目指すには、スケジュールに余裕はないが、町民の方々にもより一層の関心を頂くためにも基本構想策定後に答えやすく、回収率のアップする町民アンケートを実施すべきと考えるが。

答 4月の広報誌には基本構想について掲載、町のホームページでも意見を頂けるようにする。今までも同じようになるが、基本計画策定に向けて複数選択方式を採用し答えやすいようなアンケートの実施を予定している。



○醸芳幼稚園整備事業
4,678万2千円〔子育て支援課〕

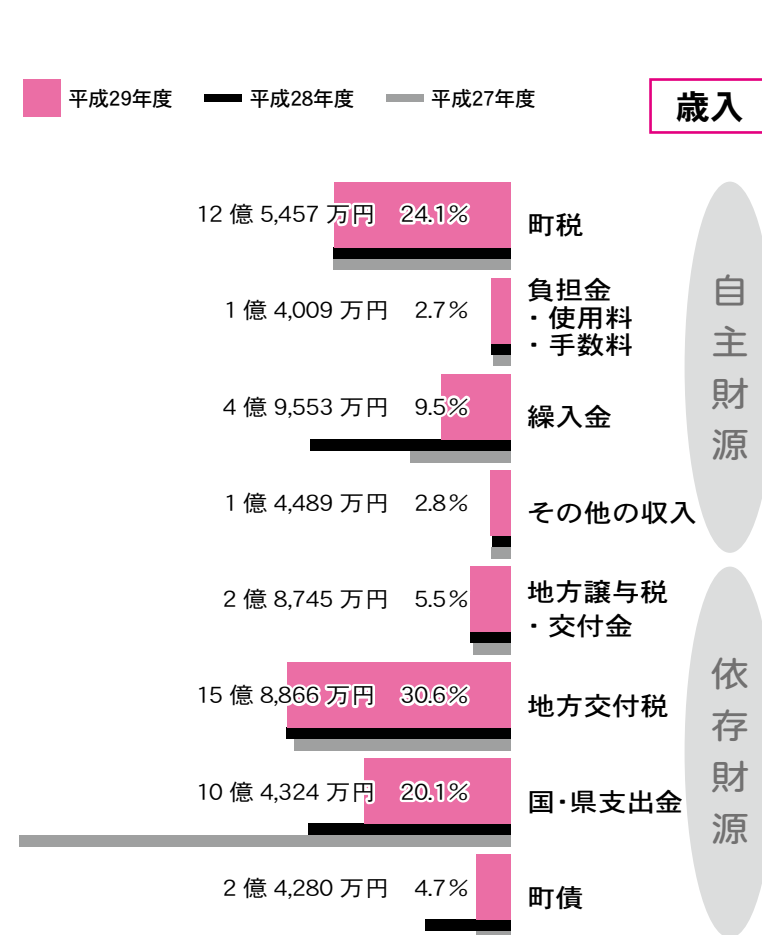


○サポートセンター改修工事
(旧浪江町デイサービスセンター)
332万4千円
〔保健福祉課〕



○駐車場整備事業
(イコーゼ北側)
3,000万円
〔生涯学習課〕

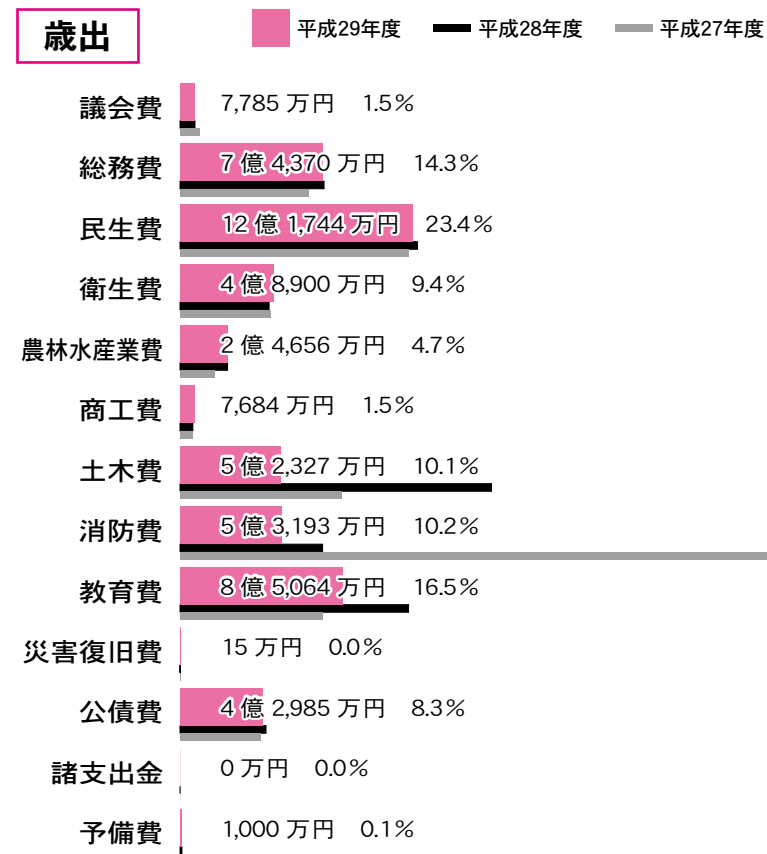
— おもな新規事業 —



平成29年度 一般会計予算

51億9,722万円

総括 質疑 3月14日



※上記グラフは、原発事故対策費を含む金額です。
※千円以下、%は少数点第2位を四捨五入とする。

原発事故対策費 5億2,140万円

問 商標登録認定を受けた「献上桃の郷」の商標について、農業所得の向上、本町の知名度、イメージアップにつながる趣旨で認定を受けたものと思う。今後、民間とは違う地方公共団体としての商標戦略が必要となる。「献上桃の郷」の商標と「ロゴマーク」をどのように扱うか、また、取り扱いの基準を作るべきと考えるが何う。

「献上桃の郷」ロゴマークの扱いは

佐藤武朗 議員

答 シンボルロゴについては「献上桃の郷」に見合う、また、それを象徴としているシティープロモーションの戦略としたものを作成する。扱いについては町の了解を得ないで使用は違法。産品にふさわしいものを本町の逸品として積極的に推進し、使用についての基準は検討している。



立志式

15歳のめざす姿とは

原 賢志 議員

することへ確実に近づいていくために教育関係者、児童生徒、保護者などに働きかけていきたい。

問 歳出予算の第2位が教育費が、学校費はその約11%だ。「桑折学習塾」へ外部講師を招く新事業。受験生全員を公平に受講させることが公益の事業ではないのか。一定の講座は全員に、それ以上を希望者にはできないのか。

桑折ならではの教育とは

川名静子 議員

答 知恵を絞り検証した結果だ。質の高い教育は中学校でしっかりやる。専任講師を招くのは、今の入試に何が求められ、どんな考えを身につければ良いかへの対策である。大変な時代の中、学習塾へ行きたくても行けない人へ、体験や経験をする機会を町として用意した。

問 ふるさと納税の返礼品用の桃ダンボールの制作と「献上桃の郷」のロゴマークの制作は一体のものとして、今年の夏の桃出荷時に間に合う制作を検討すべき。また、ロゴマークにあつては、桃の6次化商品であるソルベのパッケージデザインをロゴマークに使っても良いのでないかと考えるが所見は。

桃ダンボールとロゴマークの制作は一体で

渡邊英直 議員

答 ロゴマーク作成にあつては、シティープロモーションの大きな戦略のひとつとして検討する。また、ソルベのパッケージデザインもロゴマーク利用を視野に検討していく。



ソルベのパッケージ

役場新庁舎建設について

佐藤 榮三 議員

問 庁舎建設に当たって、3月中に基本計画に移るとのことであるが町長としては規模的にはどの様に考えているものか。

答 基本構想は年度内に決定する。機能的なものの大枠決定、建設場所の決定まで行い、29年上半年には基本計画の中で規模内容等を検討して行く。その後プロポーザル方式で実施設計に

若者世代の経済支援策は

岩崎 久男 議員

問 「町人口ビジョン」に対してのアンケート調査では、8割を超える方が桑折町に住み続けたいと回答しているが、平成27年の調査では、若者世代（34歳まで）が50％まで落ち込むことが推定され、町外流出が進行していることが懸念されることから、移住・定住の促進に向けた施策や方策について伺う。

条例制定

基金に1億を積立

町公共施設維持管理基金条例

今後の公共施設老朽化による大規模改修や解体等に係る費用増加に備え、計画的な維持管理と費用の平準化を目的とし設置。

町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第一項の規定に基づく準則を定める条例

一項の工場用地の効率的な活用及び企業立地の促進を図るため、緑地等の面積率を緩和する条例を制定し、企業が設備投資しやすい環境を整備するもの。

条例改正

町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部改正

地方公務員の育児休業等に関する法律及び育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴い、町職員の育児支援・介護支援を拡充するための改正。

献上桃の「指定継続」こそ重要

齋藤 松夫 議員

問 献上桃展開プロジェクトの成否のカギは、献上桃の「指定継続」にある。よって町として「指定継続」を、「献上桃展開プロジェクト」を進める上での大前提と位置づけるべきではないか。また、献上桃指定に至る取り組みや、これまでの業績を明らかにし関係者や関係団体を顕

彰すべきだ、さらに町が音頭をとって、指定継続のための施策として「高糖度桃生産技術開発・普及事業（仮称）」のようなものを、推進する必要があるのではないか。

答 献上桃の指定継続に向け、高品質桃生産体制確立方策を検討し、対処してまいりたい。

会計士等専門家による進捗管理を

斉藤 謙 議員

問 桑折町政策推進有識者会議の開催は、メンバーを会計士等専門的知見保有者で構成すべきと考える。何故なら、財政面のチェックは、見識者であっても中々容易でなく、役場職員でも財政担当経験者以外は理解し難い分野である。又、進捗管理は、4半期に1回は実施すべきと考

える。

答 政策推進会議メンバーには、金融機関の代表者もあり、財政面での確認には心配ないものと考えている。なお、進捗管理に関しては庁舎内でも、事業計画に対する進捗状況を定期的に実施するので、問題はないものと考えている。

福祉タクシー利用券拡充を

羽根田 八千代 議員

問 本町の高齢化率は27年度末

34・5％だ。高齢者等多くの町

してさらなる有効活用を図るための改正。

町ふれあい福祉基金の一部改正

益金以外の取崩しを制限している第7条を廃止するとともに、高齢者の福祉増進として目的が類似する「桑折町振興基金」を当該基金に統廃合する改正。

町介護保険条例の一部改正

介護保険法施行令の一部を改正する政令の公布に伴う改正。

町営住宅条例の一部改正

寺坂の住宅の一部（1戸）、西大隅の住宅の一部（1戸）の用途廃止及び桑折駅前団地の災害公営住宅（39戸）の建設に伴う管理戸数の改正。

補正予算

ふれあい公園に屋外ステージが

平成28年度一般会計補正予算（第4号）

平成28年度一般会計補正予算の総額に、それぞれ1,132万8千円を追加し、予算の総額を73億9,213万8千円とするもの。ほかに、繰越明許費の設定及び既定の債務負担行為の

民が切望していた福祉タクシー利用券の拡充については、この度75歳以上の課税世帯においても申請により給付する予算計上をされた。件数にして50世帯、現状75歳以上の対象世帯見積もりのおよそ50％だ。なかなか拡充出来ずにいたが、「攻め」の姿勢と評価する。しかし、申請状況によつては、今後補正予算もあり得るのではないか。見込まれる効果と見通しを伺う。

答 対象者の申請状況によつては、実情に即した対応をしていく。拡充により75歳以上の課税世帯においても外出する機会がより多くなり、予防介護にもつながっていく事となる。



・がんばるふるさと・桑折応援基金積立金 3,400万円

・特別地方交付税交付金 2,430万2千円

・法人町民税 1,000万円

・除染対策事業交付金 1億1,189万円

・財政調整基金繰入金 1億635万8千円

・公営住宅整備事業債 2,830万円

・福島県営農再開支援事業補助金 1,906万5千円

・産地パワーアップ事業補助金 1,653万5千円

・東日本大震災復興支援基金繰入金 1,212万2千円

繰越明許費

・農業振興活動拠点施設整備事業 6,000万円

・ふれあい公園屋外ステージ設置事業 6,000万円

・臨時福祉給付金等支給事業 3,071万7千円

など7款10項にわたり12事業の年度内執行が種々の事情により難しくなったため、繰越手続きを取るもの。（P10表1を参照）

債務負担行為の追加

ふるさと納税の返礼品について、出荷時期の都合上、年度を越えて送付することになることから、新たに債務負担を設定するもの。

地方債の追加及び変更

地方創生拠点整備交付金事業に係る総務債5,990万円を追加し、災害公営住宅整備事業に係る地方債の限度額を減額変更するもの。

国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第4号)

既定の予算総額から歳入歳出それぞれ3,285万9千円を減額し、予算総額を16億183万3千円とするもの。

《歳入の主なもの》

- ・共同事業交付金 3,239万3千円
- ・繰入金 847万6千円
- ・国民健康保険税 ▲2,323万6千円
- ・国庫支出金 ▲1,000万円
- ・療養給付費等交付金 ▲3,718万4千円
- ・前期高齢者交付金 ▲455万8千円

《歳出の主なもの》

- ・諸支出金 1,056万7千円
- ・保険給付費 ▲962万3千円
- ・後期高齢者支援金等 ▲1,776万7千円
- ・介護納付金・地域支援事業支援納付金 ▲1,300万1千円

後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

既定の予算総額に歳入歳出それぞれ438万2千円を増額し、予算総額を1億5,193万6千円とするもの。

《歳入の主なもの》

- ・後期高齢者医療保険料 617万2千円
- ・繰入金 ▲164万8千円
- 《歳出の主なもの》
- ・後期高齢者医療広域連合納付金 452万4千円

介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第3号)

既定の予算総額から歳入歳出それぞれ4,455万5千円を減額し、予算総額を14億5,963万円とするもの。

《歳入の主なもの》

- ・保険料 690万1千円

・国庫支出金

- ▲973万9千円
- ・支払基金交付金 ▲2,362万9千円
- ・県支出金 ▲1,019万1千円
- ・繰入金 ▲780万5千円
- 《歳出の主なもの》
- ・基金積立金 587万9千円
- ・保険給付費 ▲4,350万5千円
- ・総務費 ▲348万7千円
- ・地域支援事業費 ▲344万2千円

公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)

既定の予算総額から歳入歳出それぞれ1,197万6千円を減額し、予算総額を3億5,402万2千円とするもの。

《歳入の主なもの》

- ・繰越金 259万6千円
- ・県支出金 ▲27万円
- ・一般会計繰入金 ▲230万2千円
- ・町債 ▲1,200万円
- 《歳出の主なもの》
- ・総務費 16万円
- ・事業費 ▲1,017万9千円
- ・公債費 ▲195万7千円

費許明越繰

(表 1)		
項	事業名	金額
01 総務費	町内会育成振興事業補助金(御免町集会所建設事業)	635万7千円
03 戸籍住民基本台帳費	通知カード・個人番号カード発行業務	95万円
01 社会福祉費	①臨時福祉給付金等支給事業 ②既存高齢者施設等の防犯対策強化事業	3,131万1千円
01 農業費	農業振興活動拠点施設整備事業	6,000万円
02 林業費	ふくしま森林再生事業森林整備等業務	1,804万円
01 商工費	町観光資源PR写真・動画撮影業務委託事業	298万1千円
02 道路橋梁費	①町道3100号(下郡上代)線道路改良事業 ②桑折町橋梁定期点検事業	2,721万3千円
04 都市計画費	災害公営住宅関連道路整備	500万円
01 消防費	放射性物質除染対策事業	1,741万8千円
06 保健体育費	桑折町ふれあい公園屋外ステージ設置事業	6,000万円
合 計		2億2,927万円

陳情審査結果

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情について

- 〔陳情者〕 福島県伊達市保原町字舟橋 180 日本労働組合総連合会 福島県連合会伊達地区連合会 議長 高橋 誠一

〔審査委員会〕

産業厚生常任委員会

〔審査の結果〕

採択(意見書提出) (意見書P27へ)

29年度特別会計当初予算

国民健康保険特別会計 (事業勘定)

国の予算編成方針に基づいて、歳出の保険給付費や歳入の国庫負担金等を推計し、予算総額を歳入歳出それぞれ15億8,445万3千円、率にして2・7%の減となった。

《歳入の主なもの》

- ・国民健康保険税 3億783万1千円
- 前年度対比 ▲1,693万2千円、▲5・2%減
- ・前期高齢者交付金 3億2,720万9千円
- ・共同事業交付金 3億7,768万4千円
- ・国庫支出金 2億9,983万8千円
- ・繰入金 1億3,638万9千円
- ・繰越金 4,000万1千円
- 《歳出の主なもの》
- ・保険給付費 9億103万3千円
- 前年度対比 ▲2,696万6千円、▲2・9%減

後期高齢者医療特別会計

制度を運営する福島県後期高齢者医療広域連合との連携を図り予算総額を1億5,330万2千円とし、前年度対比574万8千円、率にして3・9%増となった。

《歳入の主なもの》

- ・後期高齢者医療保険料 1億344万2千円
- 前年度対比 604万5千円、6・2%増
- ・繰入金 4,480万3千円
- ・諸収入 495万8千円
- 《歳出の主なもの》
- ・後期高齢者医療広域連合納付金 1億4,453万5千円
- 前年度対比 497万8千円、

介護保険特別会計 (保険事業勘定)

予算総額を15億3,803万1千円とし、前年度予算に対し8,352万9千円、率にして5・7%増となった。

《歳入の主なもの》

- ・保険料 2億9,762万3千円
- 前年度対比 ▲189万9千円、▲0・06%減
- ・国庫支出金 3億5,413万8千円
- ・支払基金交付金 4億1,123万1千円
- ・県支出金 2億1,782万4千円
- ・繰入金 2億5,457万6千円
- 《歳出の主なもの》
- ・保険給付費 14億3,714万4千円
- 前年度対比 6,980万5千円、5・1%増
- ・地域支援事業費 4,840万9千円
- 前年度対比 1,044万円、

公共下水道事業特別会計

予算総額を3億6,522万2千円とし、前年度予算に対し230万4千円、率にして0・6%増となった。

《歳入の主なもの》

- ・分担金及び負担金 683万4千円
- ・使用料及び手数料 6,670万2千円
- ・国・県支出金 3,927万円
- ・一般会計繰入金 1億6,051万4千円
- ・町債 8,880万円
- 《歳出》
- ・総務費 1,334万2千円
- 前年度対比 ▲50万5千円減
- ・事業費 1億6,803万円
- 前年度対比 529万1千円増
- ・公債費 1億8,385万円
- 前年度対比 ▲248万2千円減

水道事業会計

福島地方水道用水供給企業団 浄水受水費、配管布設替工事費、設計委託料等。

収益的収支

収入3億6,495万1千円、支出3億3,463万1千円、当期純利益2,370万9千円となる見込み。

資本的収支

収入450万円に対し、支出が1億6,774万3千円となり、差引1億6,324万3千円の不足は、過年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税及び地方消費税、資本的収支調整額、当年度分損益勘定留保資金、建設改良積立金、減債積立金の取り崩しをもって補てんする予定。





渡 邊 英 直 議員

中山間地域の農業振興対策は 里山林整備モデル事業等を実施



— イノシシが隠れる荒農地 —

中山間地域における農業の現状は、有害鳥獣被害の拡大、耕作放棄地の増加、農業従事者の不足と高齢化、条件不利な農地が多いが、今後もこのような中山間地域の農業であっても継続できる振興策について伺う。

問 多面的機能支払い交付金事業の推進を図ることで、地域の景観と農地保全が図られると思うが。

答 町長 地域の景観と農地の保全を図るうえで、有効な手段であり更に推進を図っていく。

問 地域の今後を担う後継者の育成対策は。

答 29年度予算に新規農業者経営活動支援金（新規・新規農業後継者支援事業を計上し、農業従事者への誘導を進める。

問 イノシシの防護柵設置の進捗と、今後の有害鳥獣対策は。

答 町内全線設置に向け作業が進められている。今後は、緩衝帯の整備を進めるため、里山林整備モデル事業を進める。

災害対応と消防団の装備充実 地域防災力の充実強化を図る

昨年の岩手県・北海道を襲った台風被害又新潟県糸魚川市の大火災等の大規模災害を目にすると、事前の対策が重要と考えることから以下の点を伺う。

問 台風に対する備えとして、タイムラインの構築はされているか。また実践はされたか。

答 町長 タイムラインは、構築されている。インターネットや県総合情報通信ネットワーク等により各種情報収集を行っている。

問 土砂災害に対する調査は完了しているか。

答 土石流17ヶ所、急傾斜地10ヶ所を指定し、そのうち土石流11ヶ所、急傾斜8ヶ所は調査が完了し、未調査は県に早期調査を要望している。

問 消防団員の装備の充実は検討されているか。

答 29年度は安全確保のため、安全靴（救助用半長靴）を全団員に支給する。

これも 質 問

問 G A P（生産工程管理）取得し

答 農業団体と慎重に検討する

問 健康増進法に基づく対策は

答 健康こおり21に基づき進めている

問 国道4号IC周辺の土地利用検討の進捗は

答 農地転用や農振解除に向け検討中

一 般 質 問

ズバリ 町政を問う 60分

8 名登壇

- 一般質問は、質問者が事前に提出した通告書に基づいて、一人持ち時間60分で行われます。
- 内容は、質問者の責任において作成されたものを掲載しています。
- 質問項目は、通告によるものです。
- 一般質問の様子は桑折町議会のホームページ（録画）でご覧いただけます。

登壇議員	質 問 項 目
渡 邊 英 直	・中山間地域における農業の振興対策について ・農業生産工程管理（G A P）取得に関する生産団体との連携について ・災害対応と消防団団員の装備の充実について ・健康増進法に基づく各種対策の実施について ・国道4号インターチェンジ周辺の土地利用検討の進捗について ・桑折町橋梁長寿命化修繕計画の進捗と課題について ・役場新庁舎建設の基本構想作成に向けて
川 名 静 子	・町総合計画に基づく予算に関して ・健康寿命延伸のための生きがいづくりに関して ・文化財（特に旧伊達郡役所）を保存するだけでない活用の在り方について ・安全な学校給食の提供、そしてムダを出さない対策に関して ・国道4号インターチェンジ周辺土地利用計画の進捗状況に関して
齋 藤 松 夫	・福島蚕糸跡地の利活用計画について ・原発災害対策の現状認識及び「再生可能エネルギーの町宣言」の具体化について ・うぶかの郷の源泉枯渇対策について ・侵入防止柵設置後の有害鳥獣対策について ・国道4号インターチェンジ周辺開発手法について ・町営住宅長寿命化計画策定について
佐 藤 武 朗	・相馬福島道路を活かした今後の展開について ・役場新庁舎建設計画に関して ・幼稚園統合による伊達崎幼稚園園舎の利活用について ・本町の今後のストックマネジメントについて
佐 藤 榮 三	・「人・農地プラン」について ・「献上桃の郷」ブランド推進について ・今後の安全・安心のまちづくりについて
羽根田 八千代	※議長がインフルエンザ罹患により欠席し、副議長が代わって議長職を務めることとなったため、予定していた一般質問を取り止めた。
斉 藤 謙	・新総合計画事業の新庁舎建設等に関して ・ドローンによる防災機能強化及び産業振興等への有効活用に関して ・防災機能の充実強化などに関して ・行財政改革等に関して
岩 崎 久 男	・原発事故と損害賠償請求について ・役場新庁舎建設事業について ・納税とマイナンバーについて ・人口減少対策と町づくりについて
半 澤 高	・役場新庁舎建設について ・受動喫煙防止対策について ・町の情報発信とP R等について



齋藤松夫議員

蚕糸跡地取得時町方針への認識は 公共的利用と宅地開発計画だ

問 有害鳥獣対策は侵入防止柵設置後の対策をどうするかが今後の課題だ。道路、沢などからの侵入への対策をどう考えているか。また、全国農業新聞に「野生鳥獣対策の土台 緩衝帯の設置不可欠」との見出しで、長野県の事例が紹介されている。

答 町長 実行に移すべきであるがどうか。現場の状況を考慮しながら、山側へ距離を伸ばし、さらにその付近に捕獲のためのワナを重点的に設置する方向で、侵入を極力防止したい。緩衝帯の設置、里山の再生事業については29年度予算に、里山林整備モデル事業の予算を計上した。各地区と協議しながら実行に向けて検討して参りたい。

侵入防止柵に続き緩衝帯の設置を 29年度予算に計上し各地区と協議

問 福島蚕糸跡地6ヘクタールは、町当局が発表した「福島蚕糸跡地活用計画と財源対策骨子」並びに、それを支持した町民8,300人署名で議会を通したものだ。このことの認識は。

答 町長 計画は大震災・原発事故による仮設住宅設置により、見直しをせざるを得なかったところである。今後は応急仮設住宅解消に努めながら、新年度において調査費を計上するなどして、公園整備等について進めていく。



— 道路などからの侵入防止対策を —

これも質問

- 問** うぶかの郷へ薪ボイラー導入を
- 答** CO2削減に有効、ボイラー更新時に検討
- 問** 大かや園自噴源泉活用の検討は
- 答** 調査報告書提出は年度末となる
- 問** 町公営住宅長寿命化計画の進捗は
- 答** 年度内に「長寿命化計画」を策定する



川名静子議員

旧郡役所は本町観光の拠点では 来訪者に心地よく感じられる対応を



— 健やかに大きくなって！ —

問 今回初めて旧伊達郡役所内に桑折宿「雛めぐり」の展示が許可された。連日町内外、県外からも多くの方が訪れ大盛況であった。国指定の文化財ゆえ保存するための規則はわかるが本町のドル箱である。活用のあり方を伺う。

問 (1)企画展以外でも年間を通して来館者を増やす具体策は何か。

答 町長 (2)「冬場に暖かさ」を、「企画展中の休館日をなくすこと」ももてなす心ではないか。

答 町長 (1)(2)へ答える。旧伊達郡役所へは、建物の魅力アップに繋がるカーテン設置、ライトアップ等を通し、歴史的建造物としての価値をさらに高め、年間を通して来館者数を増やすとともに、来館者に訪れてよかったと心地よく感じていただくよう対応していく。特に暖房については考えていく。

問 (3)美術館を町民に無料開放（年数回か展示替え時）し、町民にPRをお願いしては。また、美術館同士で展示物を交換しあっているかどうか。

答 所蔵の貴重な美術品等をより多くの町民に鑑賞していただくよう「県民の日」以外も検討していく。また美術館の素晴らしさを広くPRいただける展示内容の充実に取り組んでいく。

GG常設コートを確保しては 活動の場確保に努める

これも質問

- 問** 人口減対策に予算はいくらか
- 答** 予算の4%。2億400万円程度を確保
- 問** アクリルアミドを減らす調理の工夫は
- 答** 加熱しすぎないこと等適切な調理をしている
- 問** IC周辺開発がもたらす経済効果は
- 答** 地元産の販路拡大、交流人口増加等へ期待



佐藤 栄三 議員

「人・農地プラン」今後の推進策は 事務の一元化住民参加促進も有効



— 農地を守れ共同作業 —

問 「人・農地プラン」について今後町としてどの様に推進を図って行くのか、地元の事務の軽減を図り、数多くの参加を促すためにも多面的機能支払い交付金制度と融合させた施策が有効と考えられるが何う。

答 町長 今後の推進方法については町内会等での説明会を通じて、皆様の理解を得ながら町内全域での策定を目指していく。人・農地プランの推進については農業従事者の減少により、農業用水路、農道等の維持管理が難しくなってきたことから、多面的機能支払い交付金制度活用による地域住民の参加促進も有効と考えている。人・農地プラン、多面的機能支払い交付金事業それぞれの事務取扱については、一元化できれば事務の効率的な運営が進み、取り組みができ易いと思われるので今後町内会等と協議して行く。

これも 質問

問

答 桑折町の防災士有資格者は現在28名、今後も県主催の研修会に派遣する

献上桃の郷6次化商品開発は 地域資源を活かし関係団体と連携

問 今回の「ソルベ」販売にあたり以前に販売されていた桃アイスについて参考にされている商品化であったものか経緯について何う。また、町民に対する周知試食などは行われたものか、今後の販売戦略はどの様に考えているか。さらに6次化商品の開発についての考えも何う。

答 町長 桃アイスについては、震災前に販売され好評であったと承知している。ソルベは商標登録を契機に開発した商品である。

り、町の逸品として町外に向けた町のPR活動であり、JR、空港、サービスエリア、旅館等県内外の誘客に繋がる所を招待した。今後の6次化商品については、桑折町の地域資源を活かした商品開発を、両農協生産部会や商工会等、関係団体と連携し進めて行く。



佐藤 武朗 議員

移住・定住確保の宅地供給が必要では 各種連携を図り供給に向け検討する



— 建てる場所がほしい —

総合計画では、21世紀の追分推進プロジェクトで相馬福島道路が完成すれば、多面的な経済活性化が大いに期待されるとある。相馬福島道路を活かすべき今後の計画について何う。

問 国道4号IC周辺の開発計画の構想は。

答 町長 相馬福島道路を活かした効果的な土地利用を図り、移住・定住を視野に企業誘致と新たな雇用の創出を図り、広域的な地域の拠点形成を目指す。

問 宅地等の供給を進めることにより、「移住・定住」確保への期待が膨らむが所見は。

答 市街化区域内の残存農地の掘り起こしや空き家の活用、不動産業者との連携等を図り移住・定住人口の増加に繋げていかなければならない。

問 県北エリアの発展には、広域連携が必要と考えるが。

答 「福島圏域首長懇話会」等で、関係自治体と連携して、地元特産物の販路拡大やインバウンド客を含む交流人口増へ取り組みでいく。

農業振興活動拠点の開設時期は 今秋のオープンを目指す

「本町産桃のブランド化等を推進、町のイメージアップと交流人口の拡大、農家はもとより、町民所得の向上を目指す」取り組みとして、伊達崎幼稚園西園舎跡で進める農業振興活動拠点整備事業について何う。

問 事業の具体的な構想、開設までのスケジュールは。

答 町長 農家レストランの運営や農産物の直売を予定、今秋のオープンを目指す。

問 桑折町振興公社「うぶかの郷」の事業と、この施設運営との役割分担は。

答 「うぶかの郷」は、町民の交流・研修の場としての管理運営。伊達崎幼稚園西園舎跡は「献上桃の郷」展開プロジェクトの推進に向け、地域の活性化を目指す農業振興の拠点とする。

問 新規事業立ち上げには強力なリーダーシップが発揮できる人材が必要では。

答 観光はもとより農業振興にも精通した人材の確保に努める。

これも 質問

問

答 現庁舎の跡地はどのように考えているか
答 定住人口増加の視点からも有効利用を検討

問

答 今後の橋梁のストックマネジメントは
答 橋梁長寿命化修繕計画に基づき

優先順位で修繕



岩崎久男議員

東京電力への損害賠償請求は 一部合意、交渉の途上である



— 完全賠償はいつまでに —

問 (1) 昨年11月28日、一般会計損害賠償請求総額4億2,189万円のうち207万円を受領したがその後の進捗状況は。

答 町長 (1) 一般会計損害賠償請求は、新たに東京電力と合意に至った109万円を受領し、その他は引き続き交渉の途上である。一般会計の損害賠償額はとりまとめ中である。

問 (2) 平成27年度一般会計に係る、損害賠償額及び水道事業の逸失利益額はいくらか。請求についての進捗状況は。

答 (2) 逸失利益の2倍相当を一括して支払う提案があり、対応を検討中である。

問 (3) 東京電力は、事故費用の負担を消費者の電気料金や、原発と関係ない「新電力」に求める方針を打ち出したが、事故を起こした東京電力と国の責任を明確にし必要な資金を確保する原則を確立すべきと考えるが。

答 (3) 原因者である東京電力と国の責任で対応すべきである。

これも質問

問 人口減少対策と町づくりは

答 「町総合計画」及び「総合戦略」に基づいて

問 新庁舎建設予定地は

答 旧醸芳中学校跡地が適当とする意見が寄せられている

申告書はマイナンバー記載が必要が 従来通り受理している

問 (1) 本町でのマイナンバーカードに関しては、希望者が申請して公布されるが、現時点での発行申請者は人口の何%か、及び委託経費はいくらか。

答 町長 (1) マイナンバーカードの発行については、1月31日現在で申請者863名、人口の7%となっている。委託経費については、平成28年分として610万円程度である。

問 (2) 確定申告書はマイナンバーの記載がなくても従来通り受け付けるべきと考えるが。

答 (2) (3)を併せてお答えする。平成28年分確定申告については、マイナンバーの記載が無くとも受理しているところであり、本人確認についても求めている。



斉藤謙議員

町民の安全・安心対策にドローン活用 活用規則等を含め取り組みを研究する



— 災害対策等幅広く活用期待 —

ドローンの防災・産業振興等への有効活用に関して。

問 (1) 近年、地震や台風等の自然災害により、各地で甚大な被害が発生しているが、ドローンの活用により被害予防や被害状況等、いち早く把握し、早目の対策に有効であると考え、町内の愛好者等と連携した取り組みをする考えはないか。

問 (2) 最近、新聞等でドローンの活用策が多様化しているとのこと。防災のみならず農業、建

設、獣害対策、各種イベント等で活用されてきている。当町も町内各業者と協議機関を設け、企業の創出にも繋がるように他市町に先駆けた取り組みをしていく考えはないか。

答 町長 ドローンの活用は、今後あらゆる分野で活用されると思われる。当町も各施策の活用にも有効的と思料、活用規則等を含め、取り組みに関し研究する。

緊急時対応に各戸への防災ベルの設置を 必要性・ベル機能等を調査・研究する

問 先般、糸魚川大火が発生し、人命被害が避けられた要因の一つに各戸に防災ベルを設置していたことによるといわれている。当町も高齢者宅が増加傾向にあり、特に最近の住宅は気密性が高く、外部の騒音等が遮断され、緊急時の通報が聞き取れにくくなっている。高齢化社会の安全・安心を図るための一環として、防災ベルを各戸に設置した対応をすべきでないか。な

問 役場新庁舎建設は世代間での負担

答 広く町民の意見・要望等拝聴する

問 行革推進に専門家による委員会設置を

答 新たに外部委員会を設置する

問 一部事務組合への負担金軽減策を

答 管理者会で負担見直しを提言する

お、現在町では、防災無線を配置しているというが、町内会長等特定の人限りである。時には無線機の充電切れも見受けられる。又、先日の震度4の地震で機能しなかったエリアメールでは、対策としては不十分ではないか。

答 町長 防災ベル設置については、町民の安全・安心を図る上での必要性、ベル機能等を含め充分調査・研究していく。



議員 高 澤 半

新庁舎建設基本構想策定は 年度内（3月中）に策定



— そろそろ替えどき？ —

新庁舎建設について次の点を伺う。
問 (1)ワーキンググループによる検討内容は。
答 町長 (1)基本構想・基本計画策定のための基礎的事項の調査、機能の検討等幅広く検討してきた。また、石川町・川俣町・南会津町の新庁舎等を視察し大いに参考になった。

答 (2)基本構想については年度内に策定する。その後役場管理職で構成する「検討本部会議」において決定する。
問 (3)町HPでの周知について。
答 広報こおり等での周知とともに町HPに専用のページを設け逐次経過を報告する。

PR看板等の更新は 多言語化表記と合わせて検討

町の情報発信とPR等について次の点を伺う。

問 (1)フェイスブックによる情報発信の「ねらい」は。

答 町長 (1)町HPと連動した行政情報やイベント情報の発信、災害時における情報伝達手段としての活用が「ねらい」である。

問 (2)観光案内板やPR看板等の更新は。
答 今後の観光誘客およびインバウンド（訪日外国人旅行者）対応のための多言語化表記と合わせて検討したい。

フェイスブックを採用した理由は、実名での利用率が高いという信頼性、年代を問わず幅広く利用されている点である。

これも 質 問

問 庁内の受動喫煙防止対策は

答 健康増進法に基づき対策に努めている

※受動喫煙とは
喫煙しない者が他人のたばこの煙を吸わされること。

特別委員会

設置

議会改革・活性化特別委員会

委員長 羽根田 八千代
副委員長 齋 藤 松 夫

本議会に、議会改革・活性化特別委員会を設置し10名の委員をもって構成し、議会改革・活性化のため、次の事項を付託する。

1. 調査事件
議会改革・活性化に関する調査について
2. 調査期限
1に揚げる調査が終了するまでとし、閉会中も調査を行うことができる。

役場庁舎建設調査特別委員会

委員長 原 賢 志
副委員長 佐 藤 武 朗

本議会に、役場庁舎建設調査特別委員会を設置し10名の委員をもって構成し、役場庁舎建設に関する調査のため次の事項を付託する。

1. 調査事件
役場庁舎建設に関する調査について
2. 調査期間
1に揚げる調査が終了するまでとし、閉会中もなお調査を行うことができる。

議 会 運 営 委 員 会

委員長 齋 藤 松 夫

議会運営委員会は議会基本条例具現化のため、「議会改革先進事例の情報収集」を閉会中の調査事項としてきた。

早稲田大学マニフェスト研究所の「議会改革調査報告書」が大変参考になった。直接訪問したのは、岩手県紫波町議会、宮城県大河原町議会、北海道芽室町議会です。芽室町議会における改革・活性化取り組みは、マニフェスト研究所のランキングで全国トップであるだけに、その改革ぶりは目を見張るものでした。議会運営委員会は、芽室町議会視察をもって調査を終了し、3月定例会で次のような調査報告を行った。

○ 調査の結果

(1)「議会運営委員会視察研修方針（平成28年10月31日）」に基づく当委員会の芽室町議会視察総括は（別紙）の通りである。※別紙内容は議会ホームページ参照

委員会報告

(2)芽室町議会改革・活性化取り組みの到達点は、情報公開においても画期的なものであり、先進事例調査の集大成的なものとなった。北海道栗山町から始まった議会基本条例に基づく議会改革・活性化の取り組みは加速度的にすすみつつあり、こうした状況から立ち後れることのないよう、これから芽室町議会を初め、全国の先進事例に学んでいくことが重要である。

(3)平成29年1月13日開催の議会全員協議会の協議により議会改革・活性化調査特別委員会の設置が決定された。議会改革・活性化に関し特別委員会を設置して調査することは初めてのことである。よって議会改革先進事例調査の目的は達成されたものと判断する。

常任委員会報告

総務文教常任委員会

委員長 原 賢志

当委員会は、閉会中に行ってきた所管事務調査3点のうち次の点について調査報告を行った。

○調査事件
児童生徒の学力・体力向上について

○調査目的
児童生徒の学力と体力を向上させるため

○調査経過(略)

○調査結果

①学力について
本町小・中学校の今年度の学力テストにおいて、基礎的な技能・知識力、思考・表現・活用、共に県平均を上回ることができなかった。また個人差が大きくなっている状況である。これまで、指導力の向上に向けた研修や校内研究授業、各種研修会の実施、電子黒板やデジタル指導書等を活用した効果的授業が行われてきたが、学習指導における授業の改善や充実が必要なものもあつたようである。授業

以外では、学校司書の配置による読書の奨励は一定の成果をあげている。また、土曜学習塾による学習意欲の向上や教育講演会の実施による学習習慣・生活習慣の確立が期待される。

②体力について
前年度は、走力、跳躍力、持久力、柔軟性など県平均を下回る状況にあり、屋外での運動時間が少ないことも原因と考えられる。今年度は、県発行の身体プログラムを参考にした取り組みや、体育アドバイザーの派遣を受けるなど各学校が工夫をしながら体力向上に努めている。

また、水泳授業については利用時間の割り当てや週時程の組み方などについて検討を要するものの、充実したスタッフの協力のもと効果的な指導が行われた。



―体育アドバイザーの指導を受けて―

今後は、家庭や地域と連携して生活習慣の改善を促すとともに、目標値と達成期間を明確にした取り組みを進め、併せて指導者の養成・確保に努められたい。

なお、健全な財政運営のための「健全財政について」と公正・公平・適正な入札のための「入札制度について」は、引き続き閉会中の調査事件とした。

産業厚生常任委員会

委員長 佐藤 武朗

当委員会は、閉会中の所管事務調査に3点を申し出ている。

1点目は、震災及び原発事故から6年が経過し、農業、商業、工業と徐々に回復基調にあるかと思えるが、一部においてはまだまだ、影響が残っている状況でもあることから「産業振興策について」の調査研究を行っている。調査の中で、農業振興策の一つとして、町振興公社が運営しようとしている幼稚園統合後の伊達崎幼稚園跡の農業振興施設拠点設立の計画について、所管担当課の説明を受けた。

2点目は、本町の道路、水路、橋梁等の老朽化が一段と進んでいる中、町民の安全な生活環境を守るためにも、今後の整備計画をどのように図っていくかが課題となる。そこで、「道水路等の整備状況と計画について」の調査を実施中、担当課より平成28年度橋梁点検の概要と今後の進め方について説明を受けた。

3点目は、少子高齢化が著しく進み、空き家・空き地の数が増加傾向にある。本町の実態把握、今後の利活用をどのように

図っていくか、「空き家・空き地について」の調査を進めている。委員会の共通認識を得るためにも、町内業者を講師に、専門的な立場からの「空き家・空き地」に対する全国の現状、対策、今後の課題等についてアドバイザーをいただき、各委員との質疑応答も行った。



地方自治研究交流セミナー

地方分権の推進に伴い、住民の代表機関としての最終意思決定をあずかる議会の役割と責任は重い。今回、福島大学による地域貢献事業として、地域に関する特定の課題をテーマに大学教授等を交えたディスカッションを通して、課題の問題解決を図る目的で開催された。

第3回

1/18 ふくしま中町会館

「TPPと福島の農業」

第3回セミナーは、福島大学経済経営学類特任准教授、林薫平氏による「TPP問題を取り口に考える、これからの福島の農業」がテーマであった。

講演は、アメリカ大統領の発言等にもふれながら、TPPと日本農業の背景から始まり、政府によるTPP推進と国内農業対策、特にTPPを見据えた政府の農業政策「攻めと守り」については、将来への不安を払拭し、経営マインドを持った経営発展に向けた投資意欲を後押しする対策が必要であることが強調された。

一方で、農業センサス2015の結果からは、経営体総数の

減少、経営耕地面積の減少、大規模経営の成長が見られる。TPP等の経済連携は、輸入量が増加し、国内において競争激化、産地選別がおきる。地域では、担い手の負担が増加する。また

地域での農地フル活用と農業が「環境の保全」と「地域の維持」に果たす役割は強まっているとした。

最後に福島農業の取り組み課題と福島大学における食と農の地域づくりと人材育成の取り組み、また新設の「食農学類」31年4月開設の講演をいただいた。

第4回

2/3 川俣町役場

「地域経済の活性化」

第4回セミナー最終回は、福島大学人間発達文化学類教授・初澤敏生氏による「地域経済の活性化の取り組みについて」で

講演では、各種経済統計を基に、産業別また、事業所従業員数の推移等の説明があつた。

福島県の経済動向特に震災後

については、力強い復興が進んでいるものもあるが、原発事故の影響を強く受けた浜通り地域北部の復興は遅いとされたこのような状況下にあるなか、調査をもとに現状と対策が示された。浜通りの特徴は、一部建設業に好調が見られ、従業員の回復と新規雇用も多いが退職者も多く熟練労働者が不足している。県中地域の福島と郡山を比較しながら今後の取り組みの方



今後求められる方向性として、製造業では、技術力の向上と人

材育成・新規取引先の開拓支援であり、小売・サービス業では、新しいまちづくりの実施・安心して生活できる環境の整備であると示された。

農業の振興にあつては、震災後、原発事故の影響と風評被害もあり苦しい状況にある。そのような中にあつても、新しいブランド化の方向を追求しなければならぬ。また、地域の宝さがしとそれを用いた振興策の検討も必要であると講演を締め括られた。

Cover Photo

～表紙写真～



今年度から4地区幼稚園が統合され、新園舎での入園式となった。園児総数244名は、木の香りのする園舎、プール等整備された「釀芳幼稚園」で

- ・丈夫な体を持つ子ども (体)
- ・友達とよく遊ぶ子ども (徳)
- ・進んで活動する子ども (知)

を目指し、園生活が始まる。

政務調査会報告

川俣町・国見町の新庁舎を視察

この度桑折町においても新庁舎建設に向けて検討調査が進むなか、町議会も庁舎建設に対して政務調査会として調査を開始することとした。調査対象として、東日本大震災において被災し建て替えられた川俣町、国見町両町の新庁舎を視察した。

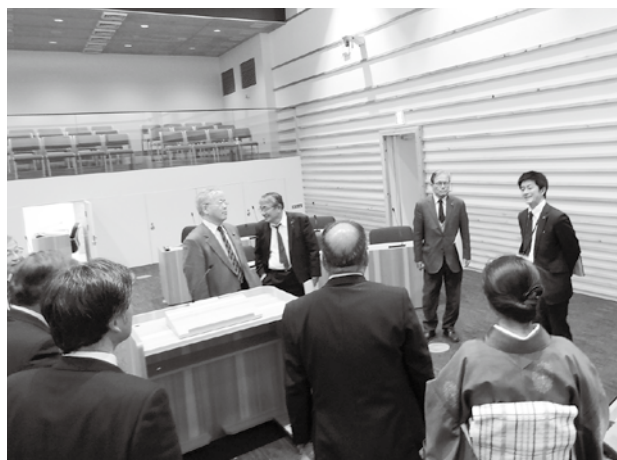
川俣町新庁舎は、29年2月3日実施の地方自治研究セミナー研修終了後に、参加議員全員で庁舎内を視察した。「地域に開かれ 未来への希望を紡ぐ新庁舎」のもと、震災の教訓を生かし防災拠点を目ざした。

そのために、免震構造とし、非常用自家発電設備の設置・環境に配慮した太陽光発電設備も設置した。また、やさしさと思いやりにより満ちた行政サービスを目ざして、ローカウスターを採用し授乳室、多機能トイレも設置されている。1階から3階までの広々とした吹抜けロビーが印象的であった。

国見町新庁舎の視察は、2月17日に行った。「復旧・復興に向けた町のシンボルに」のもと、5つの庁舎建設のコンセプトを持って進められた。①町民サービスの向上を目指した機能性・効率性の高い庁舎②すべての町民に開かれた庁舎③防災拠点機能を備えた庁舎④町民に親しまれる庁舎⑤環境の町にふさわしい庁舎であった。また、

新庁舎の特徴としては、公共建築物等への地域材の利用推進として木材（木質化）の活用が上げられる。国見町産材を始め県産国産材を多く利用し温もりの感じられる庁舎とした。3階議場は、多目的ホールとしての活用もでき、式典・講演会・避難所としての活用を可能にした。

町議会は3月定例会最終日、「役場庁舎建設調査特別委員会」を設置し、町民のための庁舎整備となるよう積極的な調査研究に入っている。



— 活用が多い議場 —

議案審議結果表

3月定例会に提出された議案は、議長（片平秀雄）を除くすべての議員の賛成により可決されました。

議員名：渡邊英直、岩崎久男、佐藤武朗、斉藤 謙、齋藤松夫、佐藤榮三、川名静子、原 賢志、半澤 高、羽根田八千代

議案名	討論者	議案名	討論者
議案第1号 桑折町公共施設維持管理基金条例	齋藤松夫 羽根田八千代	議案第14号 平成28年度桑折町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	
議案第2号 桑折町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例		議案第15号 平成28年度桑折町介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第3号)	
議案第3号 桑折町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例		議案第16号 平成28年度桑折町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)	
議案第4号 桑折町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例		議案第17号 平成29年度桑折町一般会計予算	渡邊英直 斉藤 謙 齋藤松夫 川名静子 原 賢志
議案第5号 桑折町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例		議案第18号 平成29年度桑折町国民健康保険特別会計(事業勘定)予算	
議案第6号 桑折町税条例等の一部を改正する条例		議案第19号 平成29年度桑折町後期高齢者医療特別会計予算	
議案第7号 桑折町ふるさと振興基金条例の一部を改正する条例		議案第20号 平成29年度桑折町介護保険特別会計(保険事業勘定)予算	
議案第8号 桑折町教育振興基金条例の一部を改正する条例		議案第21号 平成29年度桑折町公共下水道事業特別会計予算	
議案第9号 桑折町ふれあい福祉基金条例の一部を改正する条例		議案第22号 平成29年度桑折町水道事業会計予算	
議案第10号 桑折町介護保険条例の一部を改正する条例		発委第1号 福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書(案)	
議案第11号 桑折町町営住宅条例の一部を改正する条例		発議第1号 議会改革・活性化特別委員会の設置について	
議案第12号 平成28年度桑折町一般会計補正予算(第4号)		発議第2号 役場庁舎建設調査特別委員会の設置について	
議案第13号 平成28年度桑折町国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第4号)			

桑折町グラウンド・ゴルフ協会

1/27

町民会議とは、町政の諸課題に柔軟に対処するため、議員と町民及び町内の団体がテーマを定め、自由に情報及び意見を交換する場である。

第3回目の町民会議は、桑折町グラウンド・ゴルフ協会と意見交換が行われ、協会からは松原英男会長以下14名、議会からは議長他9名が出席した。

◎会議のテーマ

- (1) 高齢者の健康寿命と生きがいでもある高齢者スポーツ、グラウンド・ゴルフについて
- (2) 現練習場に役場庁舎建設(仮定)後の練習場の確保と整備について

◎意見交換の内容の一部抜粋

- ・ 高齢者の健康寿命と生きがい効果については、豊富な運動量と仲間との会話も楽しく脳の活性化につながる。
- ・ 足が痛い方もプレー中は痛くない。ボケ防止にもつながる。
- ・ 楽しい会話ができ、健康づくりの場、コミュニケーションの場として最適である。

特定非営利活動法人

「花の郷夢工房」 2/16

第4回の町民会議は、「花の郷夢工房」の後藤昌弘理事長以下11名、議会からは、議長や全議員が出席し実施された。

◎会議のテーマ

- (1) 日本一の桜の見本園づくり事業について
- (2) 萱尻牧野の有効活用について

◎意見交換の内容の一部抜粋

- (1) 日本一の桜の見本園づくり・理事長より平成10年に15名の有志で桜による町おこし事業を行う「花の郷夢工房」を発足させたこと、そして現在ま

グラウンド・ゴルフ協会の方々との意見交換を実施して、高齢者の生きがいのためのスポーツの重要性を共有できた。また練習場の確保は、役場庁舎建設予定(仮定)地となるなか大変むずかしい問題である。意見交換実施後の2月7日に総括を行い、今後も担当委員会や一般質問等に反映させていくことを確認した。



での活動の経過等を資料をもとに説明された。
・ 「霞会館」というスポンサーがあつて活動が続けられてきた。
・ 管理については、常時人員を配り行っている。

・ 日本一になるには、50年・80年等我々の次の世代に残すこと。

(2) 萱尻牧野の有効活用について
・ 理事長より萱尻牧野を活用し

た桜の日本一の見本園構想について説明を受けた。
・ 若い人が魅力を感じる山であつたり町であつてほしい。
・ 民間団体が500種類の見本園を考えていることを理解いただきたい。

理事長他会員さん達の熱い思いが感じられる意見交換となつた。3月30日、議員間の総括が行われ、早い時期に現場を視察することを確認した。

町民会議開催 2団体と 議会主催の

募集

町民会議の申し込みは 議会事務局へ

議会活動状況報告

平成28年12月13日～平成29年3月16日

年	月	日	活 動 状 況	内 容	出 席 者
		28	議会全員協議会	・ 3 月定例会（第 1 日）議事日程等 ・ 議案内容の説明	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	・ 平成28年度一般会計補正予算 1 件、特別会計補正予算 4 件の説明 ・ 平成29年度一般会計予算 1 件、特別会計予算 4 件、水道事業会計予算 1 件の説明	全 議 員
			産業厚生常任委員会	陳情審査	選 出 委 員
3	1		議会全員協議会	3 月定例会（第 2 日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	一般質問 5 名	全 議 員
	2		議会全員協議会	3 月定例会（第 3 日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	一般質問 3 名	全 議 員
			総務文教常任委員会	所管事務調査「児童生徒の学力・体力向上について」の調査報告書作成	選 出 委 員
	6		議会全員協議会	3 月定例会（第 7 日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	条例制定 2 件、条例改正 9 件、平成28年度一般会計・特別会計補正予算（4 会計）審議採決	全 議 員
	7		議会全員協議会	3 月定例会（第 8 日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	町長施政方針に対する質問、新年度予算常任委員会所管別説明	全 議 員
	9		議会全員協議会	3 月定例会（第10日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	平成29年度予算常任委員会所管別質疑（総務文教常任委員会）	全 議 員
	10		議会全員協議会	3 月定例会（第22日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	平成29年度予算常任委員会所管別質疑（産業厚生常任委員会）	全 議 員
			総務文教常任委員会	所管事務調査「児童生徒の学力・体力向上について」の調査報告書作成	選 出 委 員
	13		産業厚生常任委員会	陳情審査、陳情に基づく意見書（案）作成	選 出 委 員
	14		議会全員協議会	3 月定例会（第15日）議事日程等	全 議 員
			第 1 回定例会本会議	平成29年度一般会計予算総括質疑、討論採決	全 議 員
	16		議会全員協議会	3 月定例会（第17日）議事日程等、追加議案の内容説明等	全 議 員
			議会運営委員会	追加議事日程等	選 出 委 員
			第 1 回定例会本会議	・ 平成29年度特別会計予算 4 件総括質疑、討論採決 ・ 平成29年度水道事業会計予算総括質疑、討論採決 ・ 追加議案審議採決（陳情審査 1 件、意見書提出 1 件、特別委員会設置 2 件、委員会調査報告 2 件）	全 議 員

議会報告会を開きます

◎ とい

平成 29 年 4 月 27 日 (木)
午後 7 時から

◎どこで

「イコーゼ！」
多目的スタジオ

◎なにを

**総合計画・新年度予算・
庁舎建設等について皆様
と意見交換をします。**

※くわしくは、各戸配布のチラシ
をご覧ください。

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書

最低賃金制度は、非正規労働者を含むすべての労働者の賃金の最低額を法律により保障するものであり、毎年、中央最低賃金審議会が作成する「目安額」を参考に各都道府県最低賃金審議会の審議を経て、地域別最低賃金を決定することとされている。

を踏まえ、福島県最低賃金に関する次の事項について強く要望する。

1 福島県最低賃金については、政府が掲げる「年率３％程度をめどに引き上げ、全国加重平均で１０００円を目指す」との方針に沿って相応の引き上げ

最低賃金の引き上げは、全労働者の4割にも達しようとしている非正規労働者の所得の向上に直結し、内需の拡大に寄与することから、日本経済がデフレからの脱却をはかり持続可能な経済の好循環に結び付けるためには、最低賃金の大幅な引き上げが必要不可欠である。	げを行うこと。 2 福島県の復興促進、労働力の県外流出に歯止めをかけることを踏まえ、上積み改正を図ること。 3 中小・地場企業に対する支援策等を強化し、最低賃金の引き上げを行う環境を整備する
--	--

現在の福島県最低賃金は、時間額で 726 円となっているが、政府が目指すとしている全国加重平均 1000 円には程遠い金額である。その水準は 2007 年からの 9 年間全国水準で 31 位と低位にあるなど、県内勤労者の賃金水準や経済実勢などと比較しても極めて低い現状にある。福島県の復興を促進させるうえで、最低賃金の引き上げにより一定水準の賃金が確保されることは、県内の労働力の確保や若年層を中心とした労働人口の県外流出に歯止めをかけるうえで非常に重要である。

こと。

4 一般労働者の賃金引き上げ時期を踏まえ、福島県最低賃金の改定諮問時期を可能な限り早め、早期発効に努めること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 29 年 3 月 16 日

福島県伊達郡桑折町議会

内閣総理大臣 殿

よって、当議会は福島県の一層の発展を図るため、最低賃金法の趣旨

を踏まえ、福島県最低賃金に関する次の事項について強く要望する。

- 1 福島県最低賃金については、政府が掲げる「年率3%程度をめぐんに引き上げ、全国加重平均で1000円を目指す」との方針に沿って相応の引き上げを行うこと。
- 2 福島県の復興促進、労働力の県外流出に歯止めをかけることを踏まえ、上積み改正を図ること。
- 3 中小・地場企業に対する支援策等を強化し、最低賃金の引き上げを行う環境を整備すること。
- 4 一般労働者の賃金引き上げ時期を踏まえ、福島県最低賃金の改定諮問時期を可能な限り早め、早期発効に努めること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 29 年 3 月 16 日

福島県伊達郡桑折町議会

里大臣	殿
功大臣	殿
功局長	殿

意見書

(二) 部拔粹

議会活動状況報告

平成28年12月13日～平成29年3月16日

年 月 日	活 動 状 況	内 容	出 席 者
28 12	13 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	16 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	19 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	20 議会全員協議会	桑折町町民会議（桑折町道園組合）総括、桑折町議会視察研修総括、平成28年第6回（12月）定例会総括	全 議 員
	地方自治研究交流セミナー（第2回）	地方創生と地方議会の役割 講師 福島大学行政政策学類教授 功刀 俊洋 氏	全 議 員
	21 例月出納検査	定例検査	選 出 委 員
	22 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	伊達地方衛生処理組合議会全員協議会	平成28年第4回組合議会臨時会提出議案について	選 出 議 員
	平成28年第4回伊達地方衛生処理組合議会臨時会	伊達地方衛生処理組合職員の給与に関する条例の一部改正、平成28年度伊達地方衛生処理組合一般会計・屎尿処理事業特別会計・ごみ処理事業特別会計補正予算	選 出 議 員
	22 伊達地方衛生処理組合議会議員視察調査	新潟県新潟市 巻清掃センター、銚子クリーンセンター	選 出 議 員
	23 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	公立藤田総合病院組合議会全員協議会	定例会議案内容の説明	選 出 議 員
	平成28年第3回公立藤田総合病院組合議会臨時会	公立藤田総合病院職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正、平成28年度公立藤田総合病院組合議会事業会計補正予算（第1号）	選 出 議 員
29 1	4 議会広報委員会	議会だより冬号の編集	選 出 委 員
	6 議会運営委員会	12月定例会の総括、所掌事務調査「議会基本条例に基づく議会改革の先進事例調査について」	選 出 委 員
	13 議会全員協議会	「蚕糸跡地における分譲」現地視察、「統合幼稚園園舎増築工事」現地視察、役場庁舎建設に係る財政支援措置について、議会改革に関する特別委員会について	全 議 員
	17 議会広報委員会	議会だより春号（新年度一般会計当初予算関連ページ）の編集方針について、議会広報委員会視察研修について	選 出 委 員
	総務文教常任委員会	所掌事務調査「児童生徒の学力・体力向上について」「健全財政について」「入札制度について」の今後の進め方について	選 出 委 員
	18 産業厚生常任委員会	所掌事務調査「空き家・空き地について」	選 出 委 員
	地方自治研究交流セミナー（第3回）	農業問題の現状とＴＰＰの対応について 講師 福島大学経済経営学類特任准教授 林 薫平 氏	全 議 員
	20 福島県町村議会議長会 理事・監事合同会議	平成29年度事業計画及び一般会計予算、平成29年度（第2回）定期総会の開催について	議 長
	伊達郡町村議会議長会 議長会議	平成29年度伊達郡町村議会議長会当初予算（案）の概要、県町村議会議長会理事・監事合同会議の結果について	正 副 議 長
	25 例月出納検査	定例検査	選 出 委 員
	27 桑折町議会町民会議	桑折町グラウンド・ゴルフ協会との意見交換	議 長 外
	31 総務文教常任委員会	所掌事務調査「児童生徒の学力・体力向上について」「入札制度について」	選 出 委 員
2	3 地方自治研究交流セミナー（第4回）	地域経済の活性化の取り組みについて 講師 人間発達文化学類教授 初澤 敏夫 氏	議 長 外
	7 議会全員協議会	桑折町議会町民会議（桑折町グラウンド・ゴルフ協会）総括、桑折駅前団地自治会復興交流事業について	全 議 員
	8 総務文教常任委員会	所掌事務調査「入札制度について」	選 出 委 員
	川俣町議会正副議長来町応対	川俣町議会新議長、新副議長の就任挨拶のため来町	議 長
	10 産業厚生常任委員会	所掌事務調査「産業振興策について」「道水路等の整備状況と計画について」	選 出 委 員
	桑折町議会町民会議打ち合わせ	町民会議（ＮＰＯ法人花の郷夢工房）の事前打ち合わせ	正 副 議 長
	15 福島地方水道用水供給企業団来町応対	水道用水供給企業団2月定例会の議案内容説明	議 長
	16 福島県後期高齢者医療広域連合来町応対	後期高齢者医療広域連合議会定例会の議案内容説明等	議 長
	桑折町議会町民会議	ＮＰＯ法人花の郷夢工房との意見交換	全 議 員
	17 議会政務調査会視察調査	国見町役場庁舎の視察	全 議 員
	20 議会運営委員会	3月定例会議事日程、所掌事務調査報告の取りまとめ	選 出 委 員
	平成29年2月福島地方水道用水供給企業団議会定例会	平成28年度福島地方水道用水供給企業団水道用水供給事業会計補正予算、平成29年度福島地方水道用水供給企業団水道用水供給事業会計予算	議 長
	21 福島県町村議会議長会 理事・監事合同会議	平成28年度（第2回）定期総会の運営について	議 長
	福島県町村議会議長会平成28年度（第2回）定期総会	平成28年度福島県町村議会議長一般会計補正予算、平成27年度福島県町村議会議長一般会計歳入歳出決算の認定、平成29年度福島県町村議会議長会事業計画及び一般会計予算 外	議 長
	22 福島県後期高齢者医療広域連合議会運営協議会	平成29年第1回福島県後期高齢者医療広域連合議会定例会の議事日程等について	議 長
	平成29年第1回福島県後期高齢者医療広域連合議会定例会	平成28年度福島県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算・特別会計補正予算、平成29年度福島県後期高齢者医療広域連合一般会計予算・特別会計予算、福島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部改正について 外	議 長
	24 例月出納検査	定例検査	選 出 委 員

町民の声

議会広報委員会では発行後、各地区数名の方々にアンケート調査にご協力を頂いております。皆様からの率直な生の声として、「町民の声」のページに掲載しております。わかりやすい、伝わる紙面づくり、編集の参考にさせていただきます。

「議会だより」

- 毎回読む 6人
- 目にした時に読む 6人

「議会だより」を読んで気づいた点・要望など」

- ・ 議会の中にはなかなかわかりにくい。説明・質問など文字面等も理解しづらい。それより各議員それぞれポリシーを持ち活動してもらおう事が一番だ。

(60代男性)

- ・ 一般質問に出た内容がその後どうなったのかわかりたい。議会の役割がよく分からない

(40代男性)

- ・ 一般質問のページ、質・答の色分けがとてもわかりやすく、そこから内容へ入っていきける。

(60代女性)

- ・ 議会開催中、駐車場が満車だ。一般利用客用は空けてほしい。

(40代女性)

- ・ 堅い文章のイメージが強く、読む気力をなくす。

(60代女性)

- ・ 質疑のやり取り内容が理解できない時もある。誰もが理解できる文章にする必要がある。

- ・ まちづくりは住民参加だ。が、どこで、だれが、どのように決めているのか透明性が低い。住民のための行政を望む。

(70代女性)

- ・ 一部事務組合報告には今後への取り組みや選出議員の考えも併せて載せてはどうか。町民参加への具体的な方法は。

(50代女性)

- ・ これまで掲載された「声」を反映させた取り組みも載せるべきだ。タイムリーな情報公開になるよう、毎月発行を望む。

- ・ 議案に対してなぜ賛成・反対か、また、各種計画の進捗状況も不透明。議会研修も遠くまで行く必要があるのか。税金を使つての研修成果を生かして。

(50代女性)

- ・ 町の様子が大変わかり易い。各町内会での報告会を望む。

(50代女性)

- ・ 町民の暮らしにどう関わる問題なのか、わかり易い記事に工夫してほしい。

(70代男性)

- ・ 議員が少なすぎる。若者が職業として生活できるよう議員報酬を増額してほしい。

(70代男性)

- ・ 質問と答えが少しかみ合わない。議員の時間配分が悪い。また傍聴します。

(60代男性)

「傍聴者の声」

○ 今回初めて

1人

編集後記

29年4月を迎え、「献上桃の郷こおり創生プラン」の初年度となり、今後5年間の桑折町の指針となるものです。3月定例会においても、町執行部とのやりとりがなされました。

オンリーワンの町を目ざし、また復旧・復興から創生に向けて進む決意を新たに新年度となった。

渡邊 英直

■広報委員会

委員長 川 名 静 子 委員 齊 藤 謙
副委員長 渡 邊 英 直 委員 齋 藤 松 夫

まちの歳時記 ～福を呼ぶ春に～



議会だより

平成29年4月12日発行

発行 福島県伊達郡桑折町議会
責任者 片 平 秀 雄
編集 桑折町議会広報委員会
電話 (024) 582-2113
印刷 (株)神 尾 印刷 所

<http://www.town.koori.fukushima.jp>